

トビウオ通信 (R1 第6号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和元年度第2回日本海スルメイカ漁況予報》

令和元年7月25日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「2019年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(令和元年8~12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

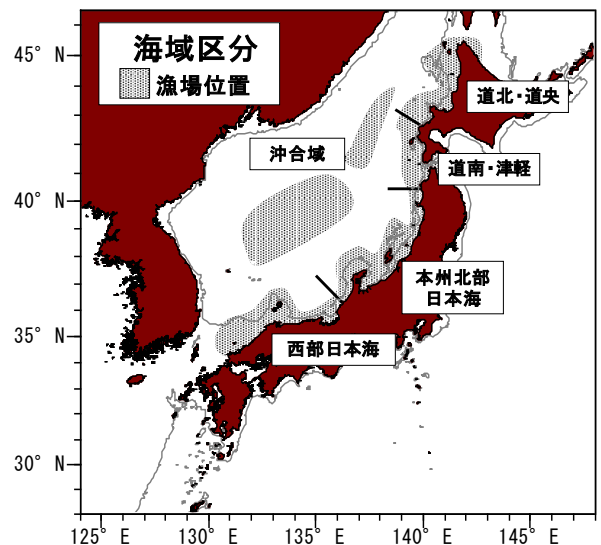
(1) 全体のポイント

今期の日本海全体の来遊量は不漁の前年及び近年平均を下回る。

(2) 漁場ごとのポイント

- 道央・道北では前年及び近年平均を下回る。
- 道南・津軽では前年並で近年平均を下回る。
- 本州北部日本海及び西部日本海では近年同様、漁場が形成されにくい。
- 沖合域では、前年及び近年平均を下回る。
漁場は、北海道西沖で8~11月、大和堆周辺海域で11~12月に形成される。

☞ 近年平均は最近5年間(平成26~30年)の平均、前年は平成30年を示します。



日本海スルメイカ漁況予報の概要

2019年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、表1のとおり5つの海域ごとに来遊量・漁況及び漁期・漁場が予測されています。予報内容は、次の4つの情報に基づいています。

- (1) 平成31年1月~令和元年6月までの日本海沿岸各地のスルメイカ漁況の経過
- (2) 令和元年6月中旬~7月上旬に実施された日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果

(3) 冬季発生系群を主体とした太平洋側のスルメイカの来遊状況²⁾

(4) 漁期前半（令和元年7月～9月）の海況予報³⁾

表1 2019年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報の内容

漁場	範囲	来遊量・漁況	漁期・漁場
道北・道央	宗谷～後志	今期前半は前年及び近年平均を下回る。	8月までと10～11月に来遊のピークがある。
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年並で近年平均を下回る。	8月までに来遊のピークがある。
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年並で近年平均を下回る。	11月までは近年同様、漁場が形成されにくい。
西部日本海	福井県～長崎県	前年並で近年平均を下回る。	近年同様、漁場が形成されにくい。
沖合域	北海道西沖～大和堆周辺海域	前年及び近年平均を下回る。	北海道西沖で8～11月に、大和堆周辺海域で11～12月に漁場が形成される。

本紙では、島根県沖を含む「西部日本海」及び「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「2019年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報¹⁾」をご覧ください。

(i) 西部日本海（福井県～長崎県）

西部日本海では5～6月に沿岸域を北上し、10月以降に沖合から南下する群（秋季発生系群）が漁獲対象となります。ただし、近年はその南下群の10～12月の漁獲が低調な傾向にあります。

西部日本海のスルメイカ漁場一斉調査の結果では、資源量指数（釣り機1台1時間あたりのスルメイカ採集尾数の平均値）は前年及び近年平均を上回った一方、海域全体の資源量指数は前年及び近年平均を下回ったことから、近年同様、西部日本海では漁場が形成されにくいと予測されます。

(ii) 沖合域（日本海中央部）

沖合域では従来、6～12月にかけて大和堆周辺海域に、水温の高い8月下旬～9月には北海道西沖にも漁場が形成されてきました。しかし、近年は漁場が北偏化するとともに漁期が遅れ、8月～11月は主に北海道西沖に漁場が形成され、大和堆周辺海域では6～7月及び11～12月に漁場が形成される年が多くなっています。

日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果では、資源量指数は前年及び近年平均を下回ったことから、沖合域への来遊も前年及び近年平均を下回ると予想されます。

また、漁期・漁場については、今期前半の水温が「平年並み」と予測されているため、近年同様、北海道西沖で8～11月、大和堆周辺海域で11～12月に漁場が形成されると予想されています。

島根県沖での漁況

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型いか釣漁業（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成31年1月～令和元年6月までの水揚量は169トンで、同期間で比べると、前年（198トン）、近年平均（517トン）を下回りました（前年比85%、平年比39%）。例年、島根県沖では1～3月に日本海を南下してくる冬季発生系群を漁獲していますが、冬季発生系群の来遊量が極端に少なかったことが不漁の要因と考えられます。

一方、6月は例年水揚量の少ない月ですが、今年は隠岐海域周辺で漁場が形成されたため、前年、近年平均を大きく上回る水揚げがありました（前年比293%、平年比261%）。スルメイカの漁場形成は来遊経路や海況条件によって大きく左右されることから、しばらくはこの状況が続く可能性があります。

今後の島根県沖での主な漁場形成は10月以降になると考えられますが、平成21年以降、10～12月の水揚量の落ち込みが顕著です（図2）。今回の予報でも西部日本海では漁場が形成されにくいとされ、島根県沖での漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

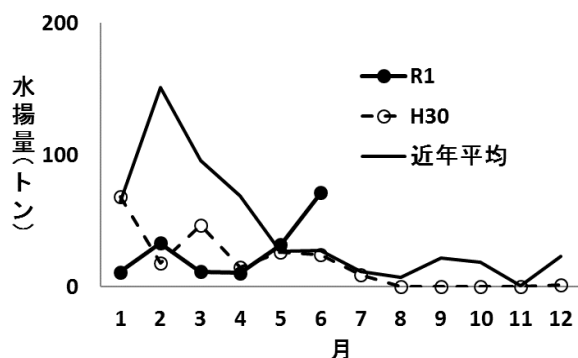


図1 主要3港（浜田、恵曇、西郷）におけるスルメイカの水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

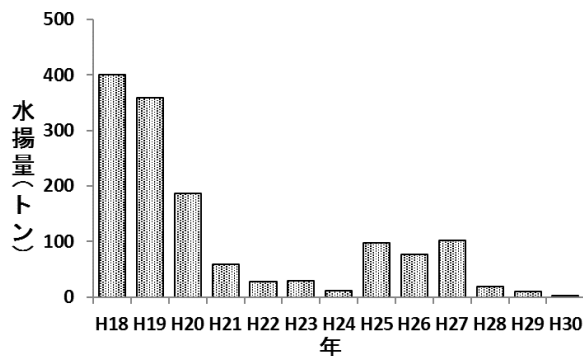


図2 主要3港（浜田、恵曇、西郷）における10～12月のスルメイカの年別水揚動向（浜田は属地、恵曇、西郷は属人統計値）

※本文中で引用した情報元

- 1) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「2019年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報」令和元年7月25日 (http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190725_n/20190725_n.pdf).
- 2) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「2019年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報」令和元年7月25日 (https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190725_t/20190725_t.pdf).
- 3) 国立研究開発法人水産研究・教育機構「2019年度第2回日本海海況予報」令和元年7月5日 (<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190705/20190705press.pdf>).